博物館エクスプレス

― 教室と博物館をつなぐ歴史情報誌 ―

発行：松戸市立博物館　発行日：2026年９月１日　　第１号

1

松戸の歴史の始まり ― 旧石器・縄文時代編1 ―

松戸には いつから人が住んでいたの？

今のところ、松戸市内でもっとも古い人のくらしの痕跡は、約３万年前のものです。みなさんの社会の教科書では、日本列島の古い時代として縄文時代のことが紹介されています。しかし、実は縄文時代よりも前の旧石器時代から松戸で人がくらしていたのです。

旧石器時代ってどんな生活

松戸に人が住み始めたころは、地球全体が今よりも寒い気候でした。寒い気候だと食べられる木の実がなる樹が少ないので、生きていくためには動物を狩ることが重要でした。動物は食料としてはもちろん重要でしたが、毛皮も寒さをしのぐために必要だったことでしょう。

動物にとってもエサになる植物が少ないため、エサを求めて移動しました。人もそうした動物をおいかけて動きまわる生活スタイルでした。いつでも移動できるように、かんたんに建てられるテントのような住居でくらしていたと考えられています。

図１:旧石器時代の石器（松戸市坂之台遺跡）狩りには欠かせない、石をわって作った刃物

縄文時代 松戸はにぎやかだった？

図2:復元された竪穴住居（松戸市立博物館）

図３:縄文時代の土器（子和清水遺跡でみつかった鍋として使われ、手に入れた木の実や肉、魚などを煮込んだ

資料展「てきおう！先史松戸の生存戦略」 開催！

旧石器時代や縄文時代の人びとは環境の変化に合わせて、生活スタイルをえらんで生きのびてきました。松戸市立博物館では、森や海の資源をうまく利用するくらしの工夫を紹介する展覧会を開催します。

会期:令和８年９月19日(土)～11月８日(日)場所:松戸市立博物館　企画展示室

開館時間:9:30～17:00 休館日:毎週月曜日(月曜日が祝日の場合開館、翌平日休館)　観覧無料

＜イラスト:AI 生成画像＞

松戸にも海があった？！

縄文時代の海岸線（薄い水色部分）です。市内の小学校の場所をマーキングしてみました。皆さんの学校を探してみて下さい。

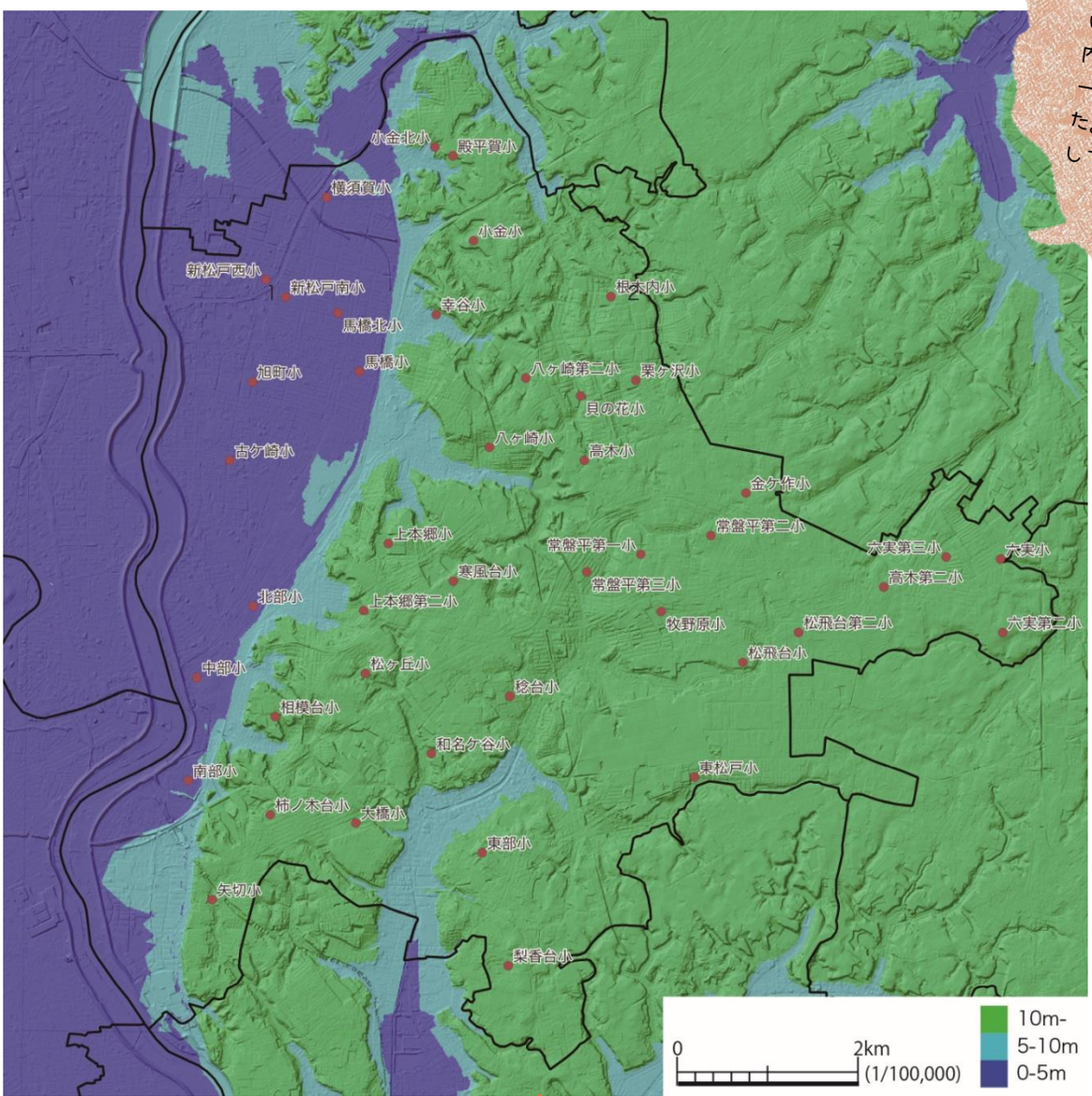

図４：縄文海進のころの松戸

旧石器時代につづく縄文時代は土器が作られるようになった時代で、約１万 6000 年前に始まります。そのころから地球全体がだんだん暖かくなり、約１万 1000 年前には現在とあまり変わらないくらいの気候になりました。

森にはコナラやクリなどの木の実がなる植物が増え、シカやイノシシなどの動物も数多くくらすようになります。森でたくさんの食料が手に入るようになると、人びとは生活に都合のいい場所に竪穴住居を建てて長くくらすようになります。こうした住まいが集まり、ムラができました。

松戸市には縄文時代の遺跡はいくつぐらいあるの？
答えは：１５４

図５：幸田貝塚の貝層（貝、動物の骨、土器などが捨てられてます）

広報誌に掲載の写真や資料は博物館の HP で見ることができます。ダウンロードして使用することも可能です。

編●集●後●記

歴史の学習を通して松戸の歴史を発見してほしい、そのような願いから「博物館エクスプレス」を発行します。教科書には出てこない松戸の歴史を月１回お届けします。授業に活用していただけますと幸いです。この紙面に関する質問やリクエストがありましたらお気軽に博物館にお問わせください。

博物館のホームページです→